

## 大切なことを学べた日

菱刈中学校 二年 柏原 優羽

五月、私は、修学旅行で福岡・長崎・熊本を訪れました。ずっと楽しみにしていた修学旅行です。計画を立てる時から福岡のキャナルシティや長崎の平和公園など行きたい所、見たい場所などどれも楽しみで仕方がありませんでした。

でも、今回の旅行で私の心に一番残ったのは、観光地や見学場所や友達との会話ではなく、その地元の人たちの温かさに触れたことでした。

修学旅行初日、私たちは福岡県を訪れました。修学旅行では、外で食事をするとき「ミールクーポン」という券を使うことがあります。私たちは、福岡のキャナルシティでその券を使いました。いろんなお店が並ぶ中、私が選んだのは有名なファーストフード店でした。気の合う仲間五人でその店に入ると、年配の店員さんが注文を取りながら、私たちの席まで準備してくれたのです。

「席、用意したよ。五人でよかった？」

それは、優しく温かい言葉でした。私は勝手ながら、都会の人は冷たいものだと思っていました。都会は毎日が忙しく、他人に構うことはないと思い込んでいました。

「みんなは今日、修学旅行でここに来たの？」

些細な会話をきっかけにして、他の店員さんとも話が弾みます。時間はあっという間に過ぎていきました。店員さん達との楽しい時間は、私たちが修学旅行だったということを忘れてしまう程でした。その日、ホテルに入ってからファーストフード店で撮った写真を見返してみると、ピースをする友人の後ろに、こそっとピースサインをする店員さんの姿を見つけました。私たちはその夜、またその話で盛り上がったことは言うまでもありません。ちょっとした旅の出会いでしたが、こういうことが、思い出をより印象深くしてくれることを知りました。

旅先でふと立ち寄ったファーストフード店で、出会った店員さんとこんな楽しい思い出ができたとき、私は、改めて人の温かさや多くの人に支えられて生きていることに気付かされました。考えてみると、この修学旅行だって多くの人の支えと関わりで実現しています。費用を出してくれた家族はもちろん、旅行会社の方やバスの運転手さん、ガイドさんや学校の先生方など、私たちの気づかないところで、私たちの旅行が楽しく終えられるようにと動いてくれる人がいるのです。

「早く修学旅行に行きたいね。」

私は、自分のしたいことだけを考え、いつも自分のことばかりに目を向けていました。周囲のことに思いをはせることは出来ていませんでした。

二泊三日の修学旅行。私は多くの場所に行き、たくさんのことを見聞きし、学校とは違う多くのことを学ぶことができました。でも、今回の旅行で感じたことは、多くの人と関わることの素晴らしさや、普段考えないことを考えることが出来たことです。

先日、突然の歯痛に、祖母がすぐ病院まで送ってくれたことがありました。その日は、た

またま両親が不在で、祖母が動いてくれたのです。後からわかったのですが、祖母はその時足をケガしており、本当は歩くのもやっとだったということでした。痛がる私のために、自分のことより孫のためにと動いてくれた祖母、祖母にはとても感謝しています。そして、私は誰かに支えられて生きていることを痛感しました。でも、それは祖母も同じかもしれません。祖母も母だったり父だったり、直接目では確認できませんが、住んでいる地域の人から支えられて生きている。みんな誰かに支えられたり、支えたりしながら生きている。

今回、私はこの修学旅行を通して、周りを見られる人になりたいと思うようになりました。